

不動明王と慈母観音

大日如来の化身である不動明王は怖い形相をしていますが、これは災難から人々を何が何でも救済するという不動明王の強い意志の表れといわれています。右手に魔を退ける三鈷剣を、左手には悪や煩惱を縛り上げる罽索という縄を持っています。病気平癒や家内安全など多くの御利益があり、各地で広く「お不動さん」として親しまれています。

世界中の苦しみの音を観るといわれる観音様。
慈母観音は、母が子に対するが如く、どこまでも深く大きい慈悲の心を持ち、温かい慈しみの眼差しで常に子ども達を見守る心優しい菩薩様です。

不動明王と慈母観音の思いは「苦しんでいる人を救いたい」と日々活動する、日本赤十字社の精神に重なります。

日本赤十字社の紋章にも描かれる吉祥の鳥『鳳凰』そして『不動明王と慈母観音』の姿に、世の安寧と人々の幸福を切に祈り願うものであります。

解説：手塚 茂樹

作者

手塚 茂樹（てづか しげき）

1975年、青森市に生まれる。
1980年、佐藤伝蔵(3代名人)のねぶたを見て感銘を受ける。
高校時代、千葉作龍(5代名人)の講演を聞いて触発され、ねぶた制作の道へ。高校卒業後は市内の印刷会社に勤務する傍ら、ねぶた制作に取り組み、2001年から竹浪比呂央に師事。
2006年から13年まで浅虫温泉のねぶたを制作、2014年大型ねぶたデビュー（マルハニチロ俊武多会）、以後毎年制作。
(敬称略)

